

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト
【上今井遊水地について】

国土交通省 千曲川河川事務所

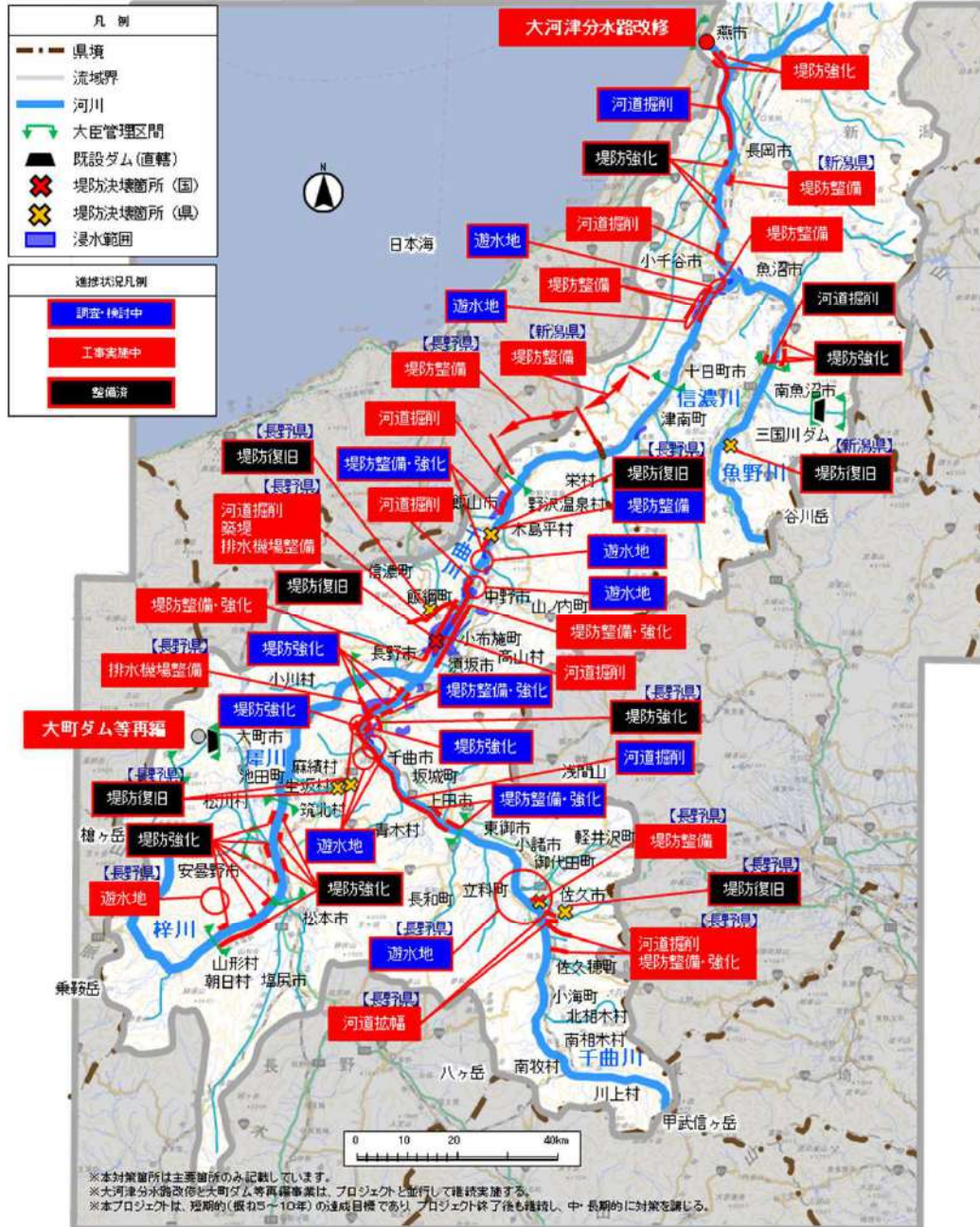
1. プロジェクトの概要

～みんなでつなぐしなのの川～
信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

～「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進～

【R3.9末時点】

○国・新潟県・長野県・信濃川流域の41市町村が連携し、令和2年1月に「緊急治水対策プロジェクト」を立ち上げ、『「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進』をスローガンに、水系全体で河川整備、流域対策・まちづくり、ソフト対策を一体的かつ緊急的に進める。



○令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した信濃川水系において国、県、市町村が連携し、「**信濃川水系緊急治水対策プロジェクト**」を進めています。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、信濃川本川及び千曲川本川の堤防で被災した区間で越水防止を目指します。

- ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
- ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
- ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

○令和3年度は、引き続き上下流バランスを踏まえた、全川での河道掘削等の改良復旧、ため池・田んぼダム等既存施設の有効利用（流域対策）、マイタイムラインの普及（ソフト施策）を実施予定

■河川における対策

全体事業費	約1,866億円	【国：約1,227億円、県：約639億円】
災害復旧	約586億円	【国：約214億円、県：約372億円】
改良復旧	約1,280億円	【国：約1,013億円、県：約267億円】

事業期間 令和元年度～令和9年度

目 標 【令和6年度まで】

- 令和元年東日本台風（台風第19号）洪水における
- ・千曲川本川の大规模な浸水被害が発生した区間等において越水等による家屋部の浸水を防止
- ・信濃川本川の越水等による家屋部の浸水を防止

【令和9年度まで】

- 令和元年東日本台風（台風第19号）洪水における
- ・千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止

対策内容 河道掘削、遊水地、堤防整備・強化

※県の改良復旧事業等の新規事業採択により事業費が追加されました。
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。

■流域における対策

- ・ため池等既存施設の補強や有効活用
- ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
- ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
- ・排水機場等の整備、耐久化の取組
- ・防災拠点等

■ソフト施策

- ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
- ・高床式住まいの推進
- ・マイ・タイムラインの普及
- ・公共交通機関との洪水情報の共有
- ・住民への情報伝達手段の強化



長野市穂保地先の堤防決壊、浸水被害状況



新潟県小千谷市内における浸水被害状況

※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト 主要対策の進め方

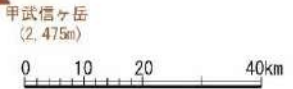
上下流や本川支川の信濃川流域全体を見据え、

- 立ヶ花狭窄部上流の緊急的な堤防強化（粘り強い河川堤防構造）
- 下流から計画的に行う堤防整備や河道掘削（大河津分水路改修、立ヶ花狭窄部掘削）
- 上流で洪水を貯留するダム（大町ダム等再編）や遊水地の整備

といった河川におけるハード対策をフル動員し、各管理者が連携・調整しながら、段階的かつ緊急的に対策を講じる。



凡例	
	流域界
	県境
	河川
	既設ダム(直轄)
	基準地点(高水)
	基準地点(低水)
	主要地点
	想定氾濫区域(国管理区間)
	大臣管理区間

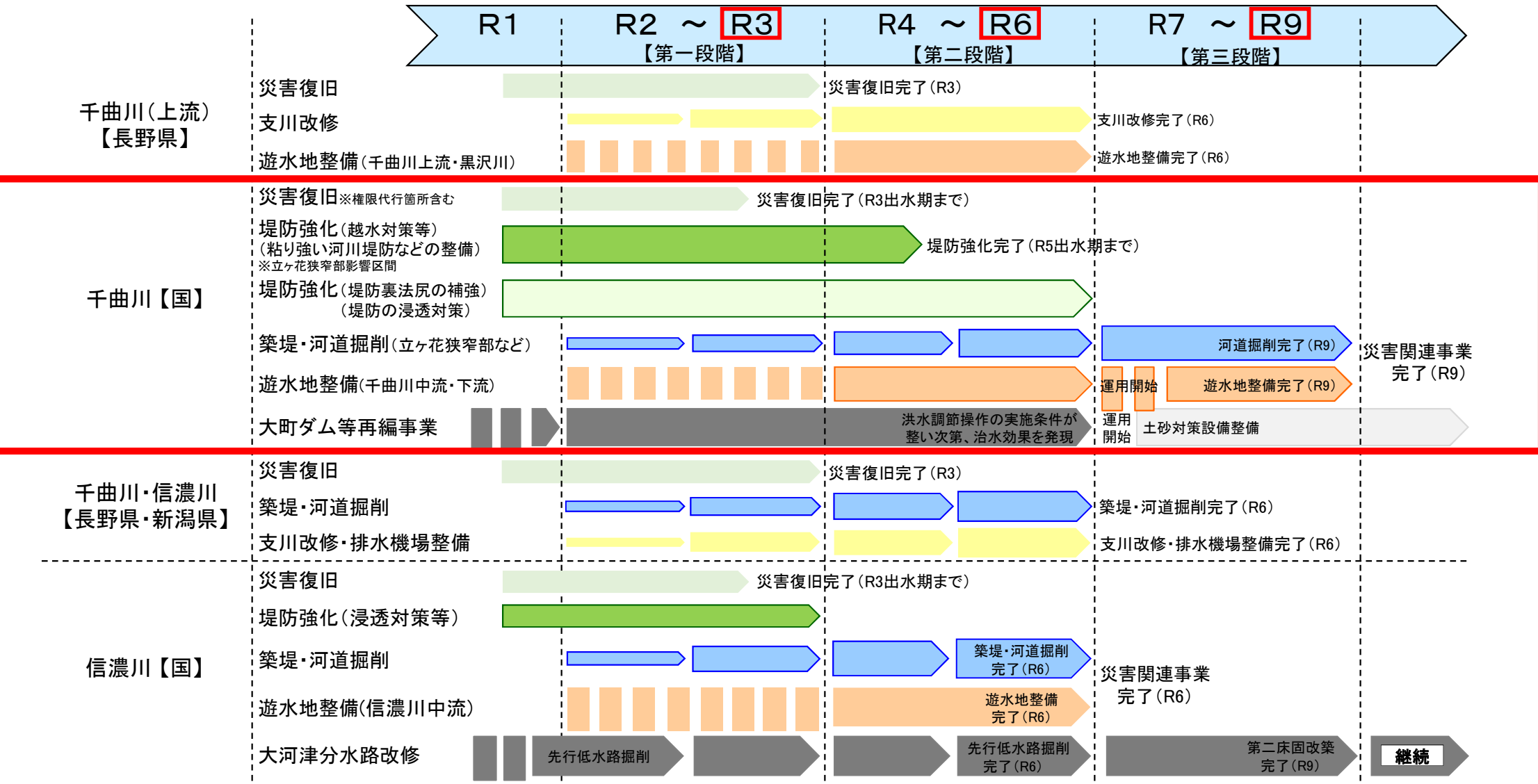


信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

ロードマップ

「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進

- 【第一段階(復旧)】 災害復旧を令和3年度までに完了(国(権限代行含む)は令和3年出水期まで、県は令和3年度)。並びに大河津分水路などの下流域の整備に応じた河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を順次実施
- 【第二段階(復興)】 改良復旧である堤防強化(粘り強い河川堤防構造など)や遊水地、大町ダム等再編事業(容量再編)を完了
- 【第三段階(復興)】 遊水地、河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を令和9年度完了



河川の水位を下げる河川整備、「河道掘削や上流の遊水地整備により水位低下」

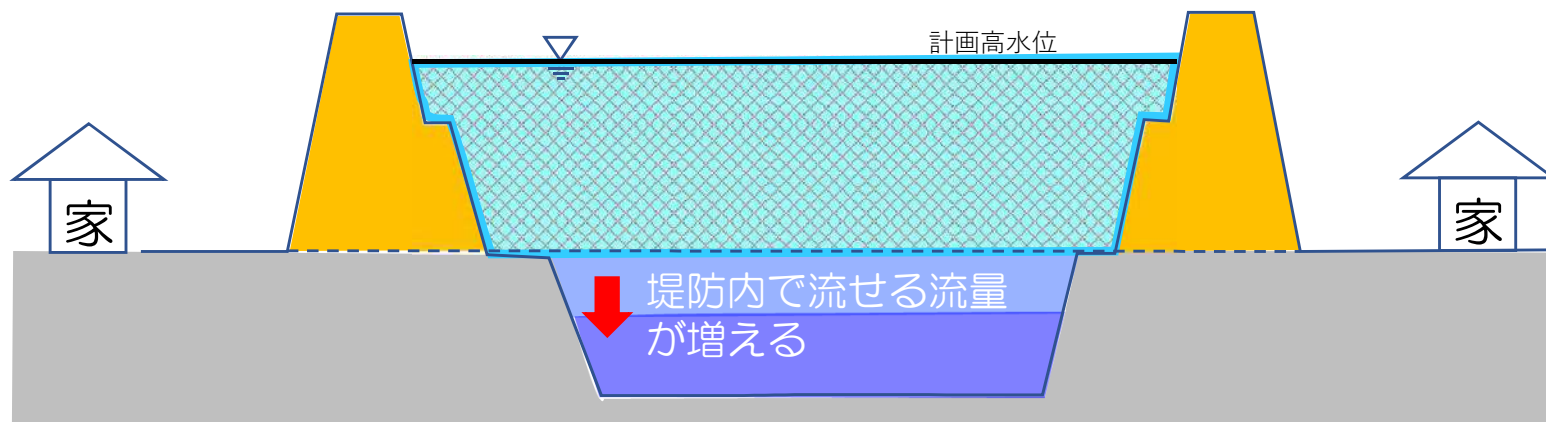
○「河道掘削」や「上流の遊水地等の洪水調節施設」により水位を下げることで水害時のリスクを低下

水位を下げる河川整備

河道掘削で川底を下げる

堤防内で流せる流量が増える

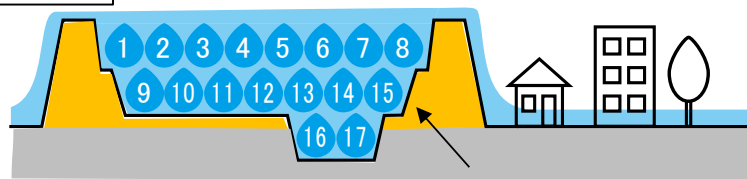
水害時のリスク低下



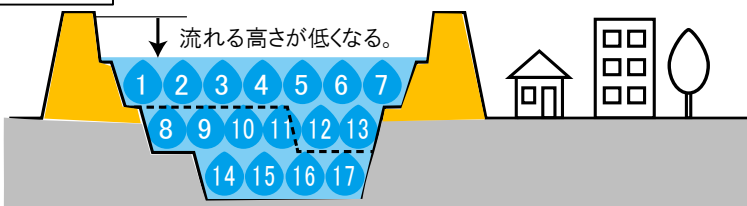
<河道掘削>

川の中の底を掘ると、流れる水の量が同じでも、流れる水の高さが低くなり、安全に流れるようになる。

掘削前

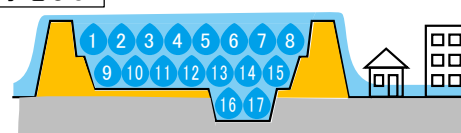


掘削後

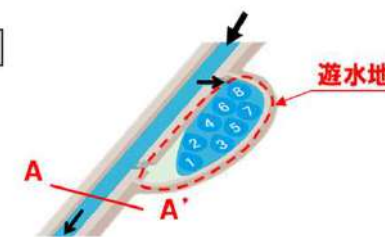


<遊水地等の洪水調節施設>

遊水地なし



遊水地



遊水地あり



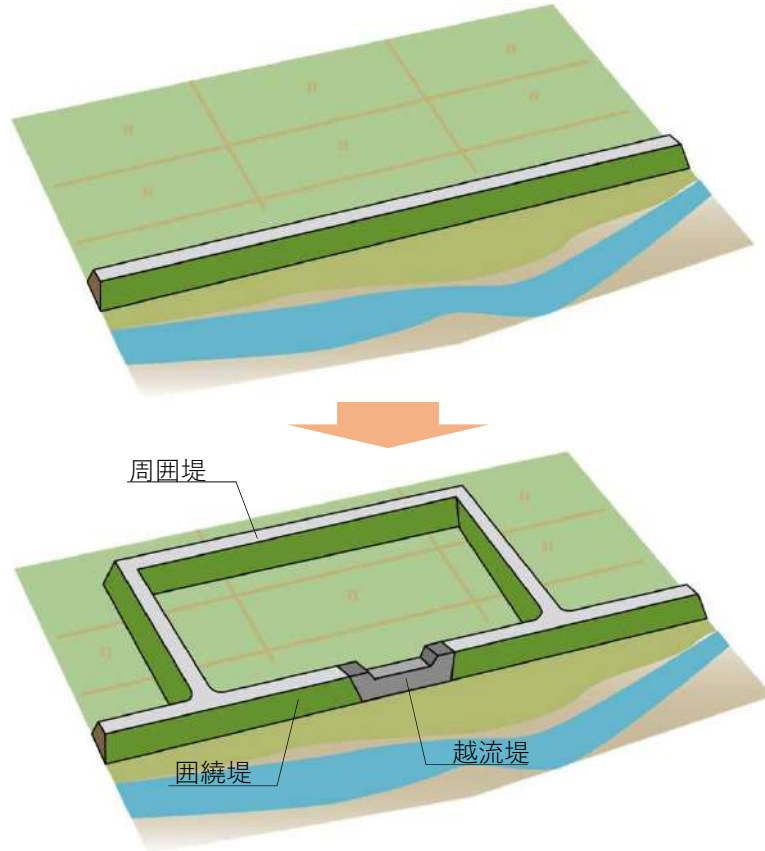
遊水地に川の水の一部を一時的に貯めることで、下流を流れる水位の高さが低くなる。

遊水地とは？

遊水地とは

遊水地とは、洪水になったときに川の水を一時的に貯めるための施設です。

上流に造った遊水地で、下流に流れる洪水を減らし、堤防から洪水が溢れたり、堤防が壊れるなどの被害を減らします。



遊水地の機能

① 平常時

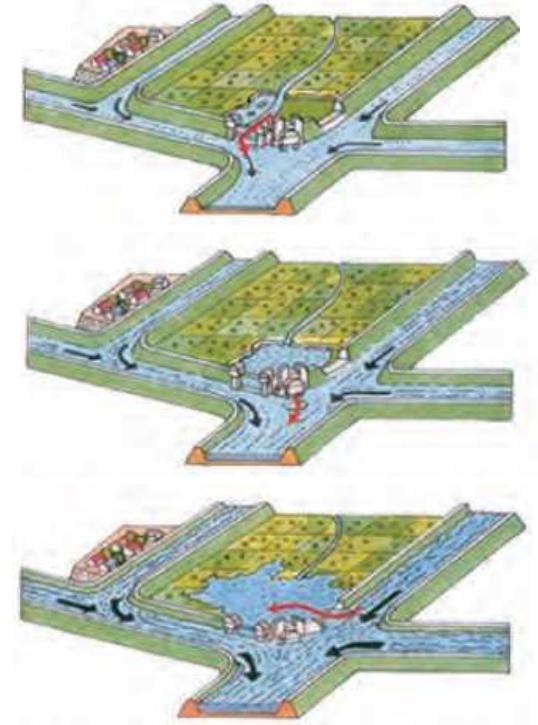
普段は、様々な用途に活用します。

② 中小洪水の時

河川を流れる洪水が遊水地の越流堤を超えない程度の中小洪水の時は遊水地内に水は入りません。

③ 大きな洪水時

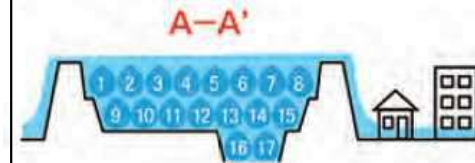
大きな洪水の時は洪水の一部を越流堤から計画的に遊水地に導き、一時的に貯留し下流河川の流量を低減させます。



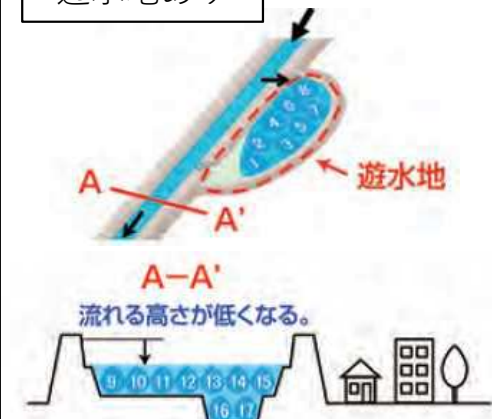
遊水地の効果

遊水地に洪水流量の一部を一時的に貯めることで、下流を流れる水位の高さが低くなります。

遊水地なし



遊水地あり



解説

しゅうい周囲堤：遊水地全体を囲う堤防です。人々の住む所（堤内地）と河川（堤外地）を分けます。

いぎょう囲繞堤：周囲堤で囲まれた遊水地内部の河道部と調節池を区切る堤防です。

えつりゅう越流堤：洪水が一定の水位になった場合、調節池内に流入させるため、囲繞堤を一部低くしたところが越流堤です。

遊水地計画地 位置図

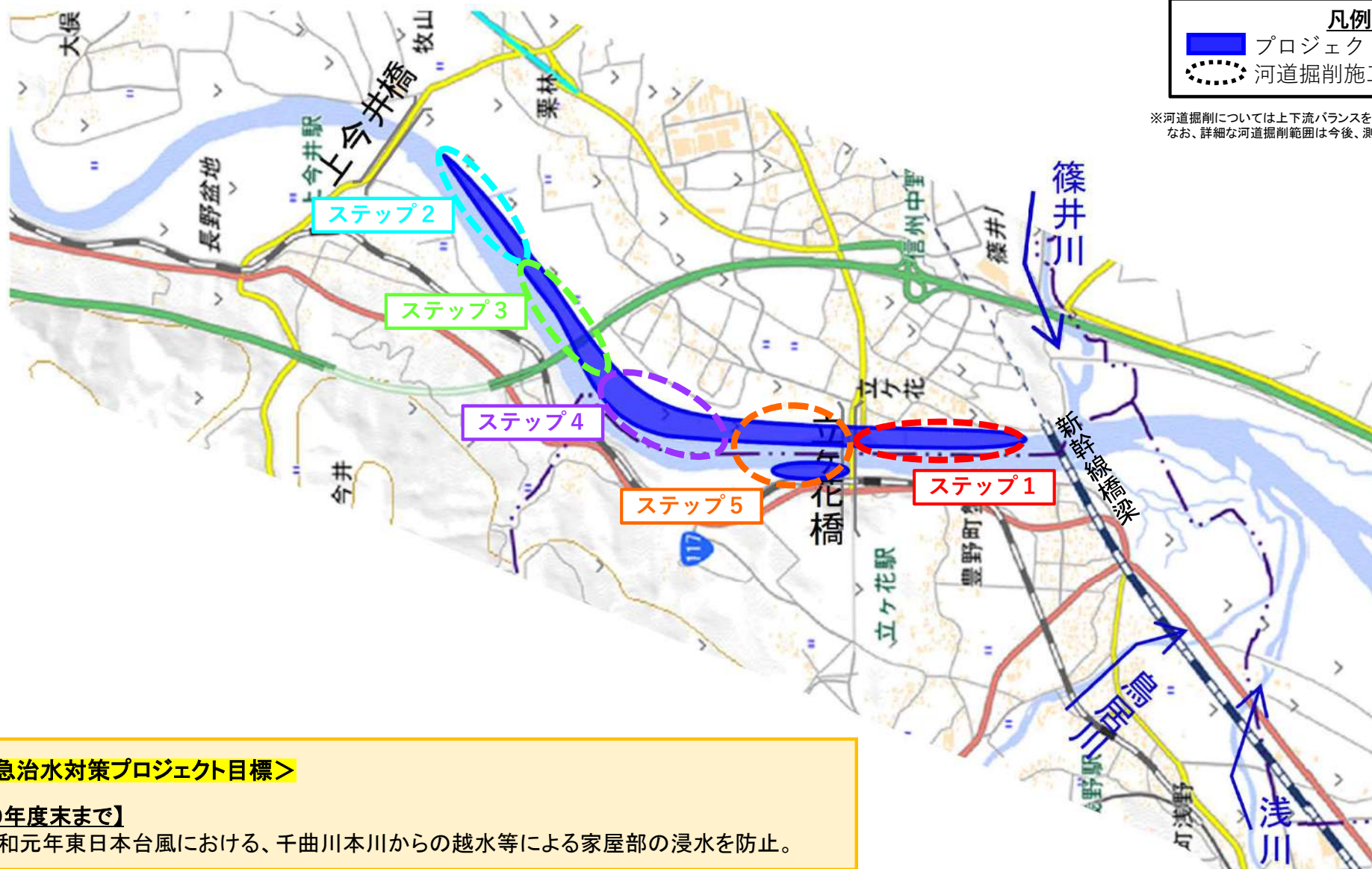
- 令和元年東日本台風に対する治水対策として、直轄管理区間において、5箇所の遊水地整備を予定。
- 令和6年度（若しくは令和9年度）までの遊水地事業完成を目指す。



※遊水地は現在計画検討中であり、範囲等は確定したものではありません。 7

信濃川水系緊急治水対策プロジェクトにおける河道掘削箇所について(立ヶ花狭窄部)

- 信濃川流域全体での上下流バランスや氾濫域のリスク等を総合的に勘案しつつ、令和2年度から千曲川本川の水位低下を目指し、立ヶ花狭窄部の掘削を段階的に進める。
- 河道掘削を行う範囲を段階的に広げていき、上流に位置する立ヶ花狭窄部のせき上がりを受けている範囲において、令和元年東日本台風規模の洪水を計画堤防高以下で流下させる(R9年度末まで)



凡例

- プロジェクト掘削範囲
- 河道掘削施工ステップ

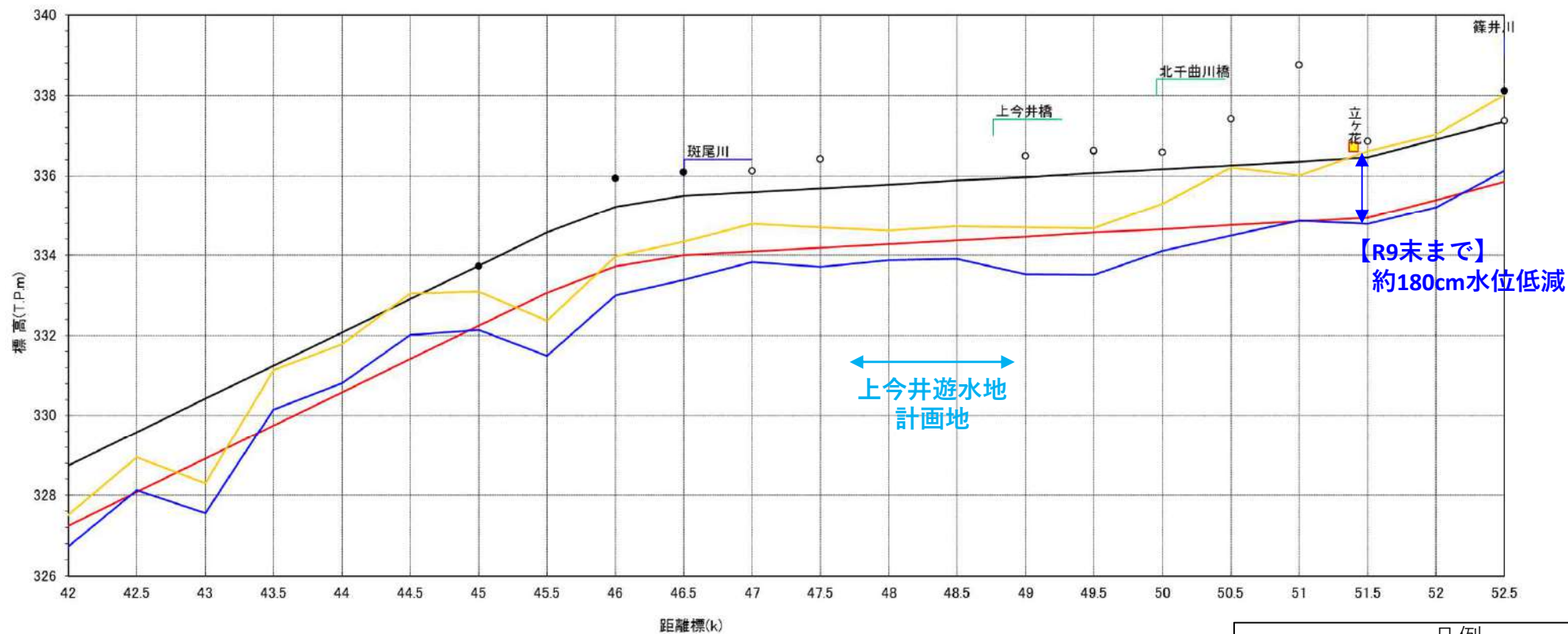
※河道掘削については上下流バランスを踏まえ、段階的に掘削を行う予定
なお、詳細な河道掘削範囲は今後、測量結果等を踏まえて決定する

<緊急治水対策プロジェクト目標>
【R9年度末まで】
令和元年東日本台風における、千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止。

河道掘削等の水位低下効果について(立ヶ花狭窄部)

- 令和2年度からの各年の河道掘削により、段階的に水位の低下を図る。
- 令和9年度末までに河道掘削・遊水地の整備と合わせて、約180cm程度千曲川本川の水水位低減させる。

令和元年度東日本台風規模の洪水が
氾濫せずに流下した場合の水位

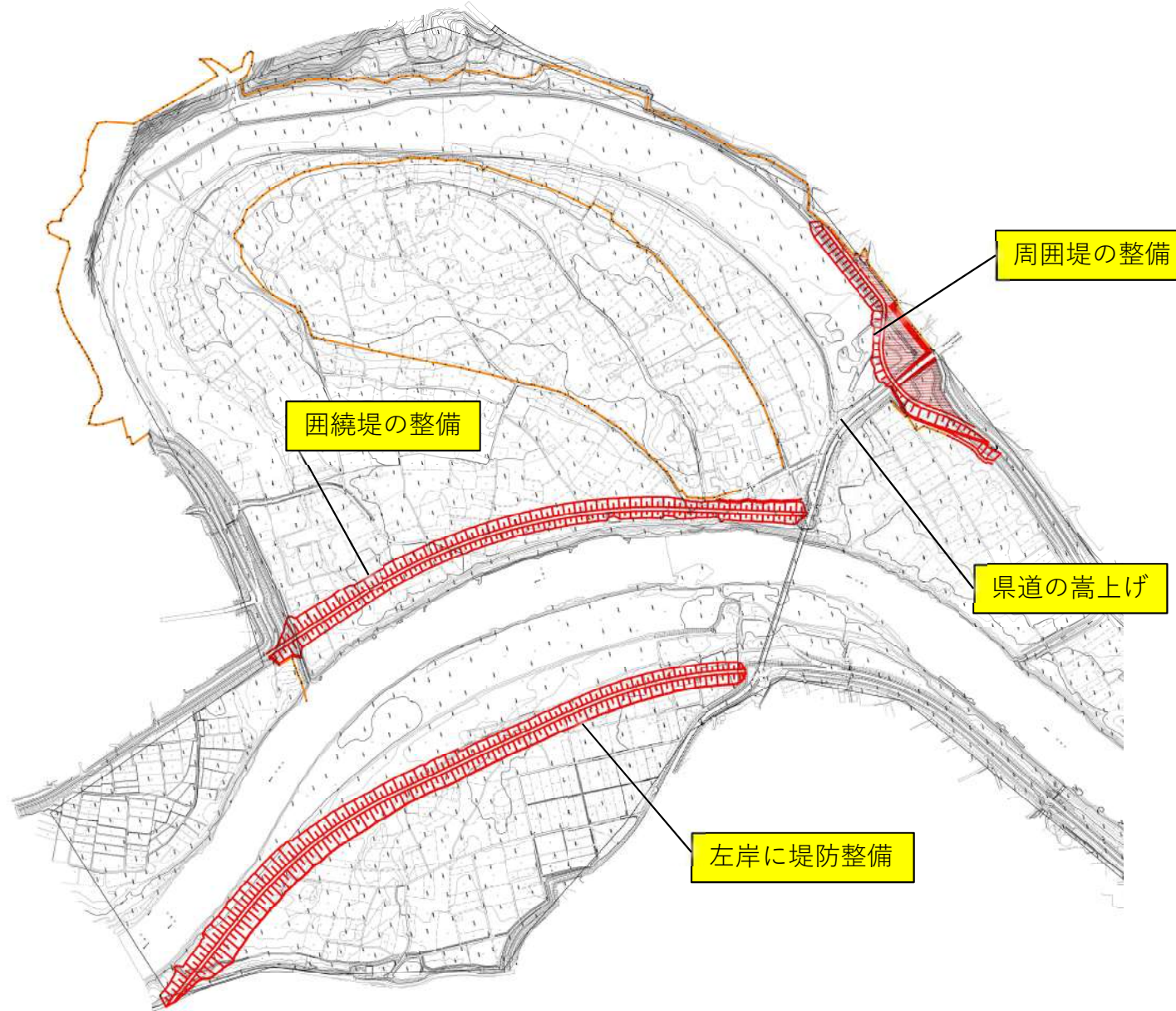


- 凡例
- 計画堤防高
 - 計画高水位
 - 現況堤防高 (左岸)
 - 現況堤防高 (右岸)
 - プロジェクト前の河道での水位
 - R9末までの河道での水位

2. 遊水地 施設説明

上今井遊水地 平面配置

- 千曲川旧河道部の利用し、無堤区間に堤防(囲繞堤及び周囲堤)を設置し、遊水地を形成する。
- 上記堤防に囲まれた部分のうち遊水地内の計画高水位相当より地盤高が高い部分は耕作地としてそのまま残す。(耕作地のうち、一部計画高水位より低い土地も残るが、農道を嵩上げし、計画高水位相当の高さを確保する。)



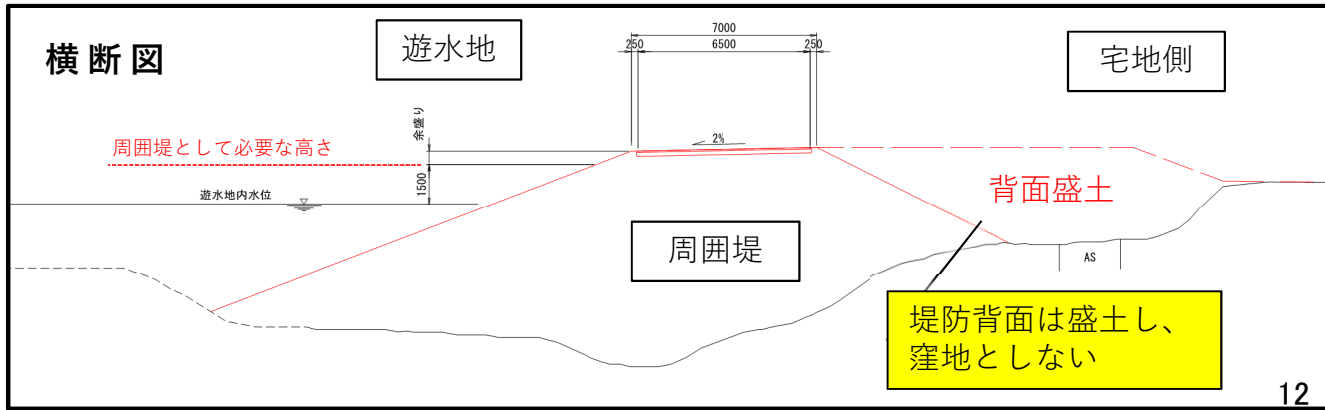
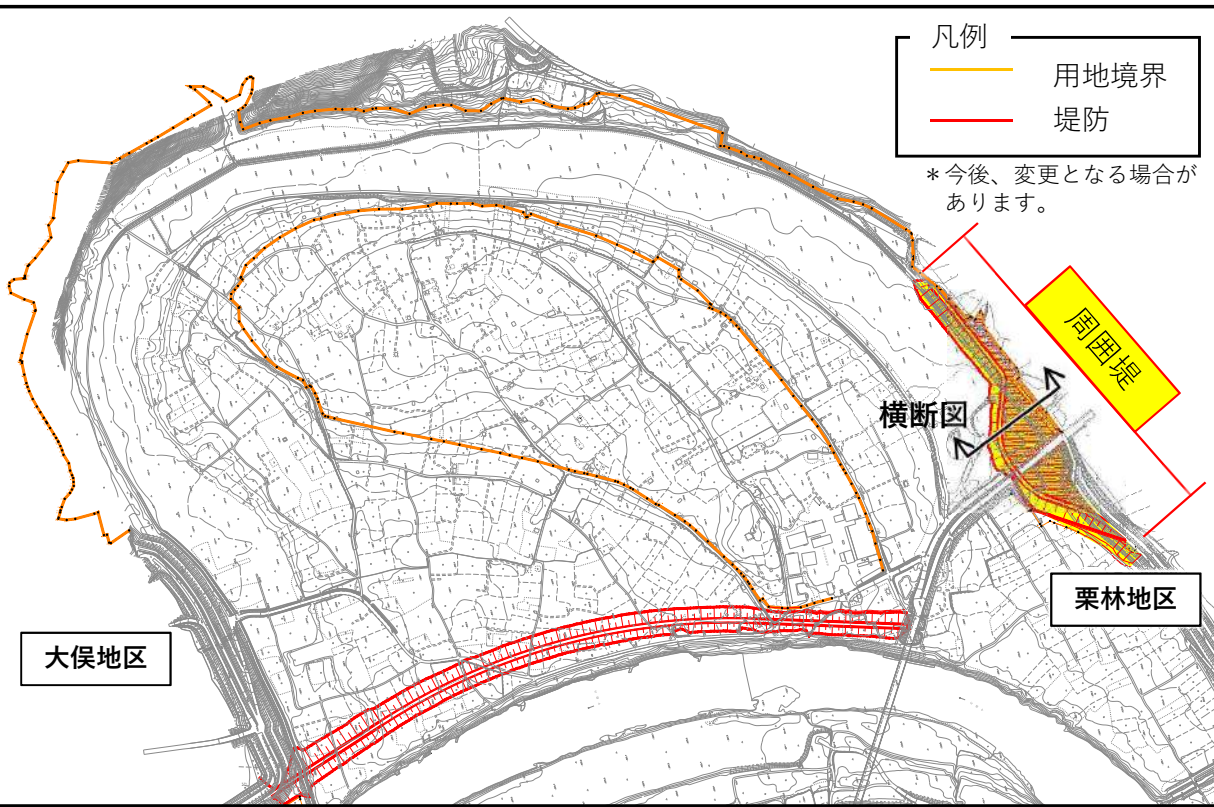
凡例

- 用地境界
- 堤防

* 今後、変更となる場合があります。

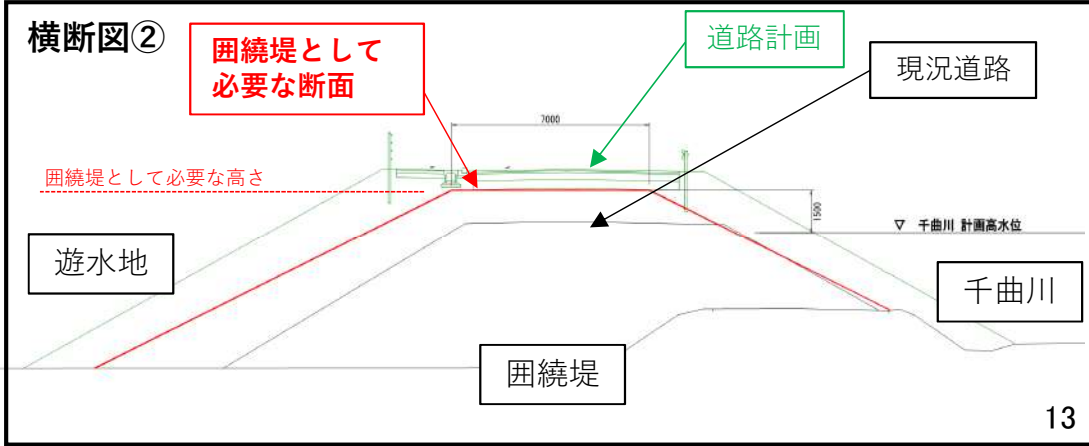
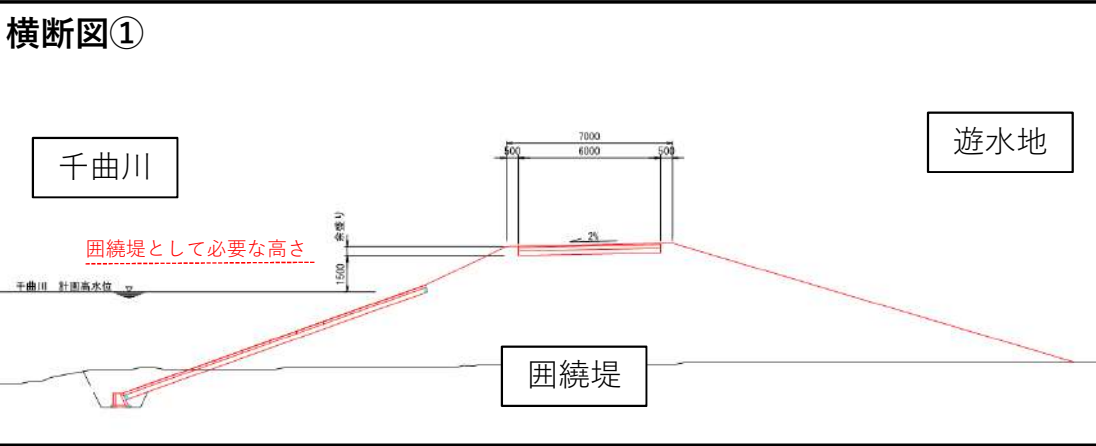
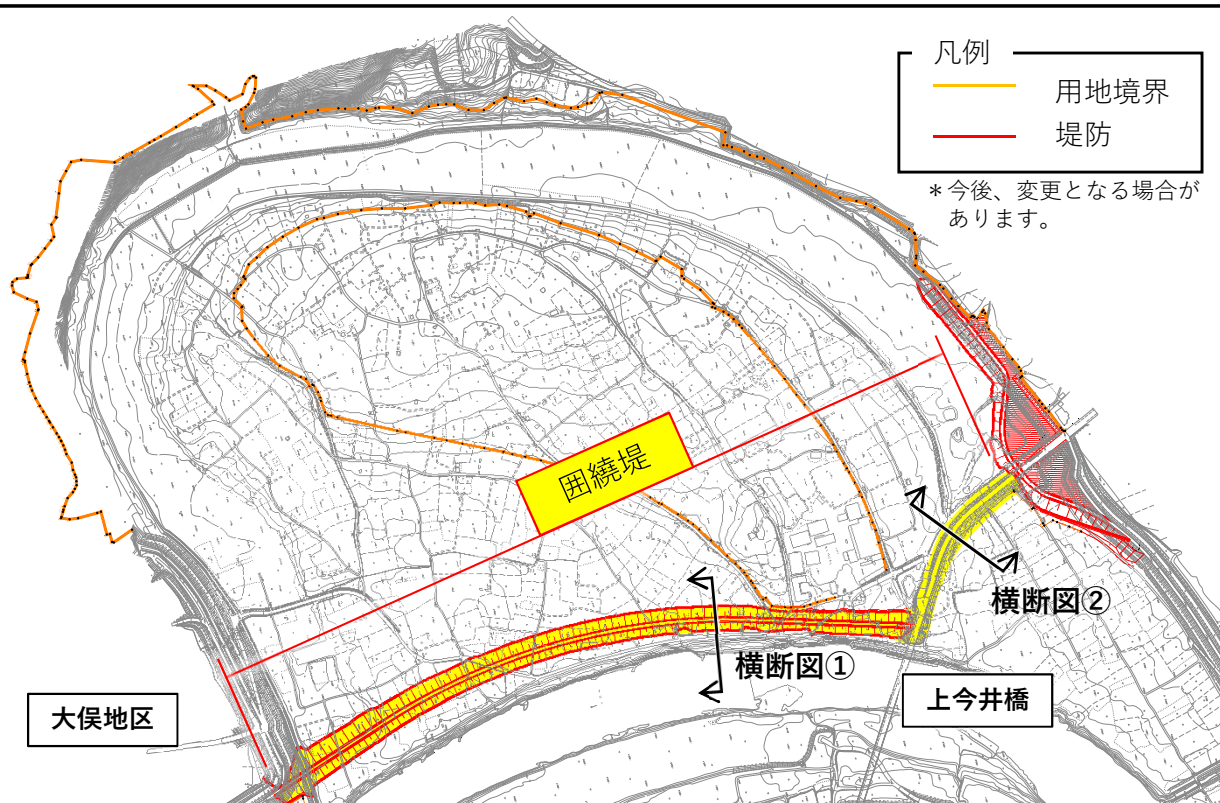
上今井遊水地 周囲堤

- ・ 周囲堤の高さは、遊水地側の水位＋余裕高※とする。（※余裕高は河川堤防と同じ考えで設定）
- ・ 栗林区側側の堤防は、道路への取付を考慮し、堤防を前出しする。
- ・ 大俣地区側は、既存堤防が遊水地の周囲堤として必要な規格を満足するため、既存堤防を活用する。
- ・ その他の部分は現地形を利用するものとし、堤防は不要と想定。



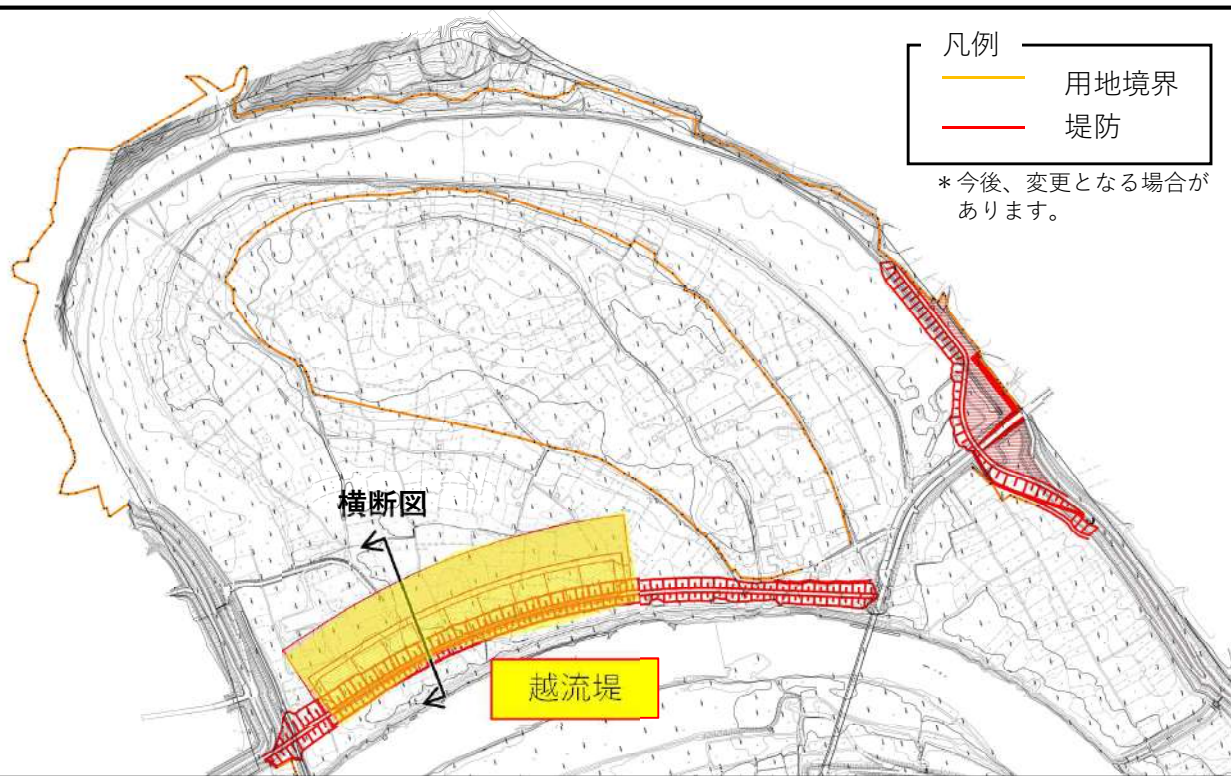
上今井遊水地 囲繞堤

- ・ 囲繞堤の高さは、千曲川側の水位＋余裕高※とする。（※余裕高は河川堤防と同じ考えで設定）
- ・ 無堤区間（上今井橋～大俣地区）に新たに堤防を設置し、囲繞堤とする。
- ・ 県道三水中野線は堤防相当高まで嵩上げし、遊水地の囲繞堤と県道を兼用する。（県事業と連携して実施。）



上今井遊水地 越流堤

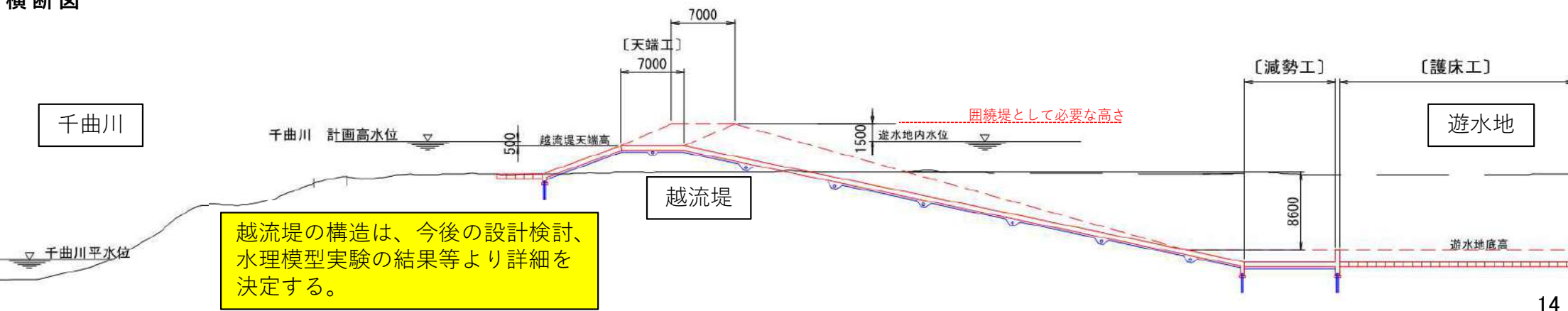
越流堤を遊水地の下流側へ配置する。
越流堤とあわせて、減勢工※、護床工※を設置する。



※用語解説

減勢工：越流堤を越えて流入する洪水の勢いを減ずる施設
護床工：越流堤を越えて流入する洪水による洗掘を防止する施設

横断面



上今井遊水地 左岸堤防

- ・ 遊水地の整備とあわせて左岸側の無堤区間へ堤防を設置する。
- ・ 堤防を設置する範囲については、用地買収が必要となる。
- ・ 左岸堤防背面の埋立については、地元との調整を踏まえ検討を進める。



左岸堤防背面の埋立について

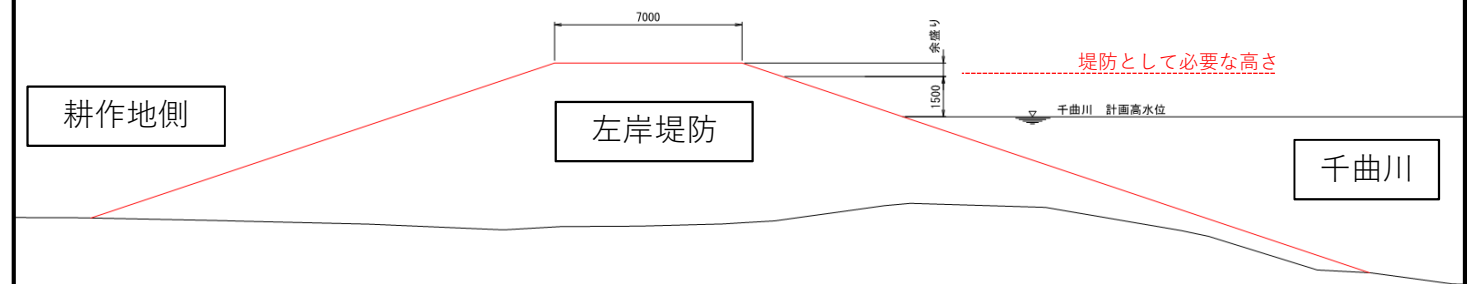
R2年度 地元説明会
遊水地の掘削土砂を利用して左岸堤防の背面を埋立て欲しいと意見有り

R3年6月 上今井左岸埋立委員会 設立
左岸背面の埋立について要望

R3年9月 意向調査の実施
上今井左岸埋立委員会により埋立に関する意向調査を実施

引続き地元と調整を行い
左岸築堤背面の埋立を検討する

横断面



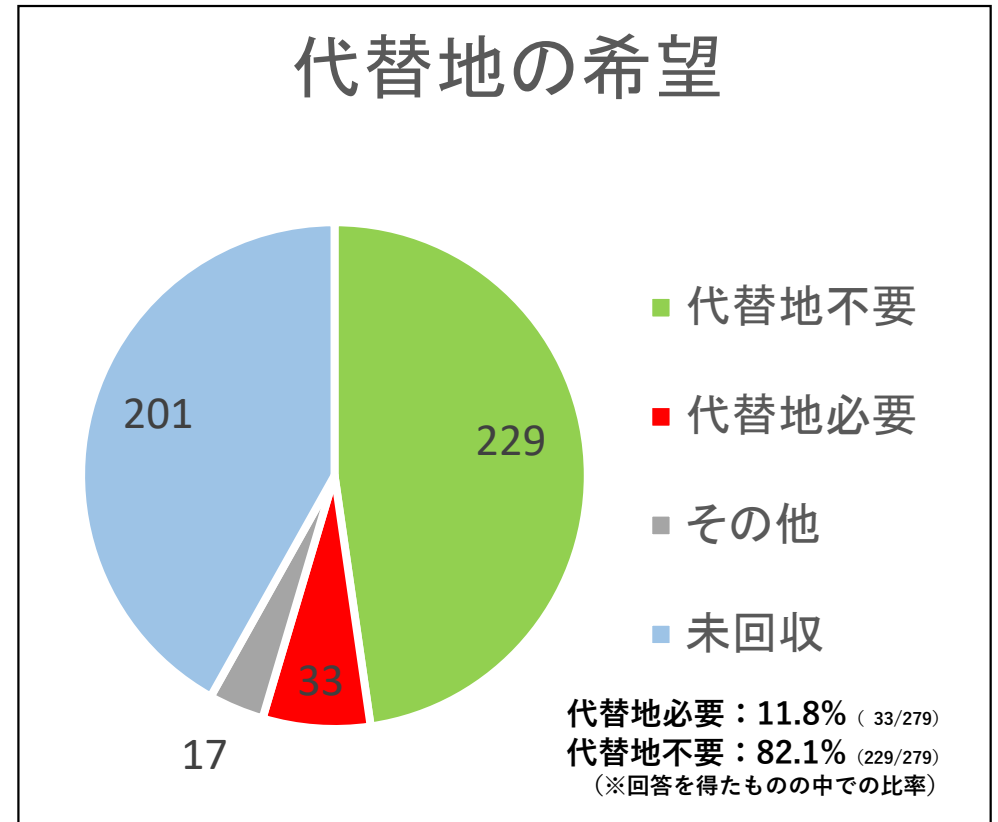
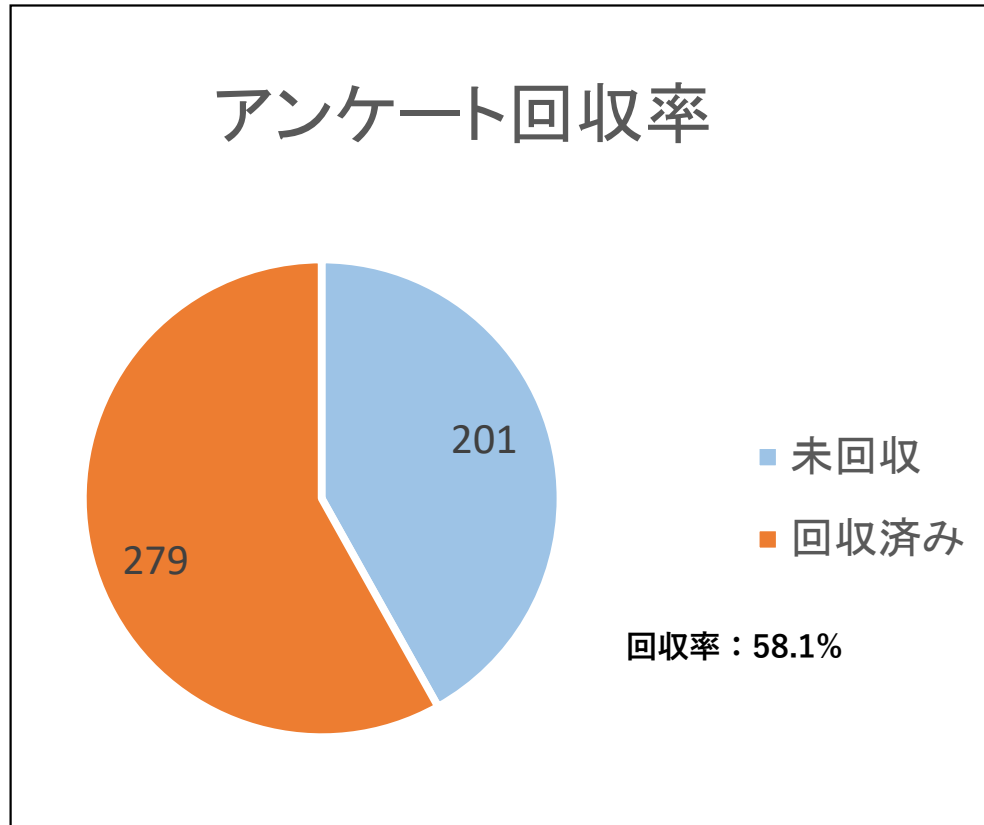
3. アンケート集計結果

上今井遊水地 意向調査結果

- ・上今井遊水地については、以下の項目について意向調査（アンケート）を実施。
- ・アンケートの結果、代替地を必要とする方の比率は11.8%であった。（※アンケートを提出いただいたものでの比率）

<アンケート項目>

- ・用地買収となった場合、農地等の代替地を希望しますか？



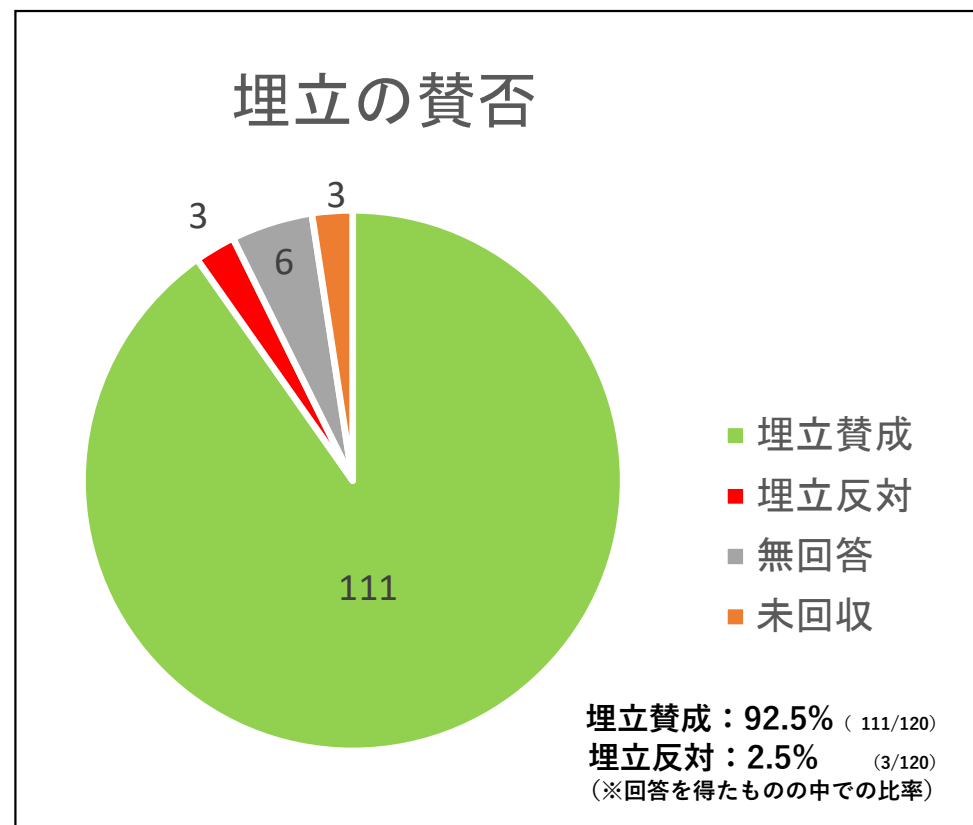
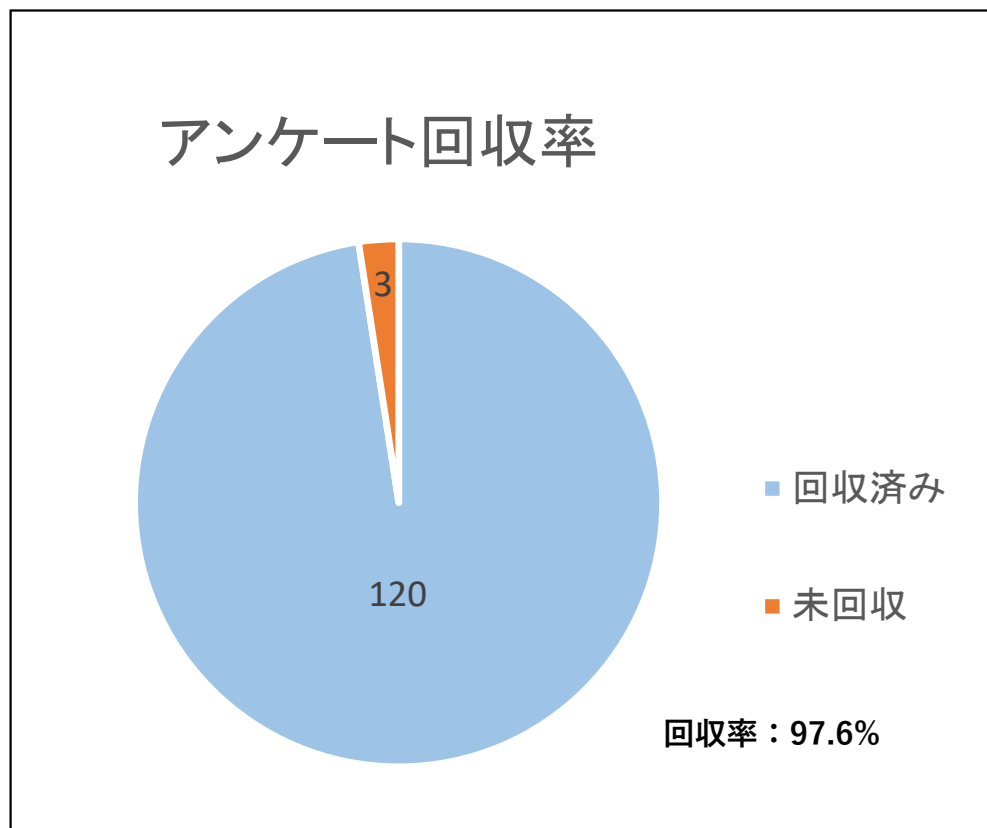
※アンケート調査範囲（遊水地計画地全域）の面積約100万m²に対し、耕作地として残る範囲（計画）の面積は約30万m²（約30%程度）である。

左岸堤防背面 意向調査結果

- ・上今井遊水地については、以下の項目について意向調査（アンケート）を実施。
- ・アンケートの結果、埋立に賛成する方の比率は92.5%であった。（※アンケートを提出いただいたものでの比率）

<アンケート項目>

- ・上今井左岸堤防背面について埋立に賛成しますか？



※上今井左岸埋立委員会にて地権者全員の同意を得られるように調整中。